

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

| | | |
|---------|-------|------------------|
| 城北 中学校区 | 校番 56 | 福山市立久松台小学校 |
| | 最終更新日 | 2026年(令和8年)4月10日 |

I 福山市

| | |
|------|---------------------------------|
| めざす姿 | すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現 |
|------|---------------------------------|

II 中学校区

| | |
|---|---|
| 前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容 前年度の学校関係者評価報告書は「十分満足できる」と評価された項目が多かった。中学校校区で連携を深め、いろいろな取組で成果をあげている。各校の目標未達成の取組については現状をしっかりと把握し、達成に向けPDCA サイクルに則り実践する。 | 児童生徒の現状 前年度の全国学力学習状況調査の結果では、国語・数学(・理科)の平均正答率が市平均をどの学校でも上回ることができた。ただ、正答率40%未満の生徒は一定数おり、課題である。また、不登校の児童生徒も多い現状がある。 |
|---|---|

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| 育成する資質・能力 | 主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献する力 | | |
| めざすこども像(義務教育修了時の姿) | ・主体的に考え、判断し、自律して行動する児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、協働する児童生徒 | | |
| 中学校区として統一した取組等 | ・授業研究及び教科等部会の取組 ・家庭学習とメディア利用の取組 ・地域協働と地域交流の取組 | | |

| | | | |
|-----------|--|---|----------------------------------|
| 育成する資質・能力 | 主体的に判断する力 | 課題を発見し解決する力 | 地域社会と協働し貢献する力 |
| めざすこども像 | 自分の考えや経験を基に主体的に判断し、自己決定したり、じっくり内省したりして、自律に向かうことができる。 | 身の回りから課題を見つけ、自分で考えたり他者と協働したりして解決しようとしている。 | 地域のよさや課題に目を向け、自分にできることを考え実践している。 |

III 自校

| |
|-----------------------------------|
| 学校教育目標 自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子 |
|-----------------------------------|

| |
|---|
| 現状 〈児童・授業〉 ・これまでの研究で「自己選択・自己決定」「対話と書くこと」「振り返り」に重点を置いた授業づくりをPDCA サイクルで行うことで、児童の主体性を伸ばすことができている。 ・地域のよさや課題に着目し、地域の方や地域の店舗に協力してもらいながら、自分たちにできることを実践することができている。 ・福山市学力定着状況調査(昨年度12月実施)の「国語・算数」では市平均を上回り、基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。しかし、正答率40%未満の児童は、国語・算数ともに6.7%いる。 ・主体的に授業に取り組み、基礎的・基本的な学力が定着している児童が増えている一方で、基礎的・基本的な内容の習得ができていない児童もいる。 ・児童からの問いをもとに授業づくりを行っている。しかし、その単元・授業で身に付けなければならない力に迫っていく問いをもっと設定していく必要がある。 |
|---|

| | | |
|---------|---|---|
| 研究 | テーマ | 探究的な学びを通して、問いを更新しながら学びを深める児童の育成 ～問い・対話・振り返りを通して～ |
| | 内容等 | 【研究の柱】 ①問いを生み出し、学びの起点とする授業づくり ②対話を通して問いを揺さぶり、更新する学び ③振り返りを通して学びを自覚し、次の問いにつなぐ ※すべての児童が主体的に問いに関わることができるよう、 基礎的・基本的な内容の確実な習得 を図る支援を、探究的な学習過程の中に位置付ける。 |
| めざす授業の姿 | 探究的な学びを通して、問いを更新しながら学びを深める授業 主 児童が自己決定したり、じっくり内省したりできる授業 教師が、児童の実態からの確にファシリテート(問いを設定)する授業 課 課題に対して自分の考えをもつことができ、他者と考えを伝え合い、協働して解決できる授業 地 児童が、地域のよさや課題に目を向け、自分たちにできることを考え実践できる授業 | |

| 年 目 | 中期経 営目標 | 重 点 | 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に 向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | |
|--------|--------------------------------|--------|-------------|---|---|--|--|------------|----------|------|--|------------|----------|----------|
| | | | | | | | <input type="checkbox"/> 指標に係る 取組状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 改善方策 | <input type="checkbox"/> 指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 総合 評価 |
| 5 | 自ら考 え学ぶ 児童の 育成 | ★ | 見 直 し | 探究的な学 びを通し て、問い を更新し ながら学 びを深め 、自律し た児童を 育成する とともに 、確かな 学力を定 着させる。 | 「付きたい 力に迫る 問い」「学 びの質を 高める対 話」「学 びを自覚 し、次に つなげる 振り返り 」に重点 を置いて 授業づく りを行う。 児童のつ まづきを 把握し、 基礎学力 を定着さ せる。 | ・児童アン ケート「授 業で学習 した内容 について 、分かった 点や、よ く分から なかった 点を見直 し、次の 学習につ なげること ができて いる。」と 答える児 童の割合 を、各学 級85%以 上にする。 ・「授業 や家庭学 習、帯タ イムを活 用して児 童のつま づきを補 充する。」 を100% 実施する。 | | | | | | | | |
| 3 | 思いや りのあ る児童 の育成 | | 継 続 | 自分の良 さに気付 き、自信 をもって 物事に挑 戦できると ともに、 思いやり をもって 相手と関 わることが できる児 童を育成 する。 | 自分や友 達の良 さに気付 き、伝え 合ったり 、振り返 ったりす る取組を 行う。週 に1回の 「なかま タイム」 、たて わり掃 除等を実 施し、他 者(児童 も教職員 も)と関 わる場を 設定する。 教職員間 で学級経 営について 分析・交 流し合う 研修を実 施する。 | ・児童アン ケート「自 分のよ さは、ま わりの人 から認め られてい る。」「 周りの人 の良さを 認め、自 分に取り 入れよう としてい る。」に 肯定的に 答える児 童をそれ ぞれ85% 以上にする。 | | | | | | | | |
| 1 | 自らの 生活を 律する 児童の 育成 | ★ | 見 直 し | 自らの心 身を大切 にし、健 康の保持 ・増進に 向けて行 動すること ができる 児童を育 成する。 | 外遊び推 奨日を設 け、運動 習慣を身 に付けさ せる。ミ ニ保健や ランチル ーム給食 を通して 、保健指 導や食・ メディア コントロール に関する 指導を行 う。 | ・生活アン ケートで どの項目 においても 健康の保 持・増進 に向けた 行動がで きている と回答す る児童を 85%以上 にする。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|----|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 5 | 地域に貢献する学校 | 継続 | 持続可能な社会について探究し、地域に還元できる児童を育成する。 (SDGs・CS) | 生活科の学習や総合的な学習の時間に、地域に根づいた持続可能な社会づくりについて学び、実践する。 | ・児童アンケート 低学年「地域のことを知ったり、地域と関わったりすることができている。」 高学年「地域とつながったり、地域に貢献したりすることができている。」に対する肯定的割合を85%以上にする。 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|----|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 達成度 | 評価基準 |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |